

〔各評論に以下関係圖の存在を知る〕… \* せりふを含め言葉(潜在物:F)の裏には、関係(D1)と言ふ實在物が存在してゐて、「関係(D1)の方が先行する」「在るものは関係(D1)だけである」と恒存は言ふ。しかも、この事が解らぬが爲に、日本は「近代化適應異常(D1の至小化)」を冒したと。「日本の近代史を『近代化に對する適應異常の歴史』として見直す事を提案する」(『適應異常について』)の言も其處から起因してゐると思へる。

\* 以下圖は、各評論①~⑧に於けるその「關係論」、つまり、言葉(潜在物F)の裏にある関係(實在物D1)と、關係・實在物たらしめる場(C又はC')、そして「F・D1」二者を有機的に結び附けるその型(E)の有無を示したものである。

**D1(關係:實在物)…** ①愛(神意)の不可能性(ロレンス)②宿命・關係喪失=危機(シェイクスピア)③傳統・文化(鷗外・荷風)④近代化(『近代の宿命』)⑤自然の生理(『人間・この劇的なるもの』)⑥近代化(『醒めて踊れ』)⑦近代化(『日本および日本人』)⑧文化(『文化とはなにか』)

**C(神・歴史=時間的全體・自然=空間的全體)・C'(場)**  
①神・コスモス(ロレンス)②神喪失(シェイクスピア)③歴史・時間的全體(鷗外・荷風)④神C喪失=西歐近代 C'(『近代の宿命』)⑤自然(『人間・この劇的なるもの』)⑥⑦C'西歐近代(『醒めて』『日本および』)⑧歴史(『文化とはなにか』)

**F(言葉:潜在物)…**

①F精神主義(ロレンス(『アポカリプス』論より)。  
②自由F=孤独F=自我の不安F(シェイクスピア)。  
③素材F(鷗外・荷風)。  
④「ヨーロッパの近代精神(F)とその政治制度F・経済機構F(『近代の宿命』)。  
⑤祭日F(『人間・この劇的なるもの』)。  
⑥「メカナイゼーション(F機械化)、システムライゼーション(F組織化)」等(『醒めて踊れ』)。  
⑦近代戦F・國家主義F・個人主義F・西洋流の神F(『日本および日本人』)。  
⑧言葉F・物F・文化財F(『文化とはなにか』)。

**E型(潜在物Fの裏に實在物D1を際立たせる型・Fの「so called」でD1を見せる)…** ①「F」へのnot so called(Eの至小化)。その結果としての「抑壓された我意(A)」が招く「自己欺瞞(A⇒B潜り込み)」即ち「弱者の歪曲された優越意思(A⇒B潜り込み)」(ロレンス)。  
②Eの至大化=D1の至大化「危機(D1)と戯れる」(シェイクスピア)。  
③E型・様式・文學・文體(鷗外・荷風)。  
④「神の解體と變形と抽象化」(『近代の宿命』)。  
⑤儀式E(『人間・この劇的なるもの』)。  
⑥「精神の政學(Eの至大化)の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力(Eの至大化・So called・附合ひ方)」(『醒めて踊れ』)。  
⑦「馴れない(not so called=Eの至小化)」(『日本および日本人』)。  
⑧生き方・氣質・教養(『文化とは…』)。

